「美空ひばり、筑紫哲也に人生を語る 99 分」内容　（録音順の構成と抜粋）

■「迫害の記憶・・逆境を乗り越えてきた人生」　（筑紫）・・・（マスコミによって）被害を受けたといいますか、「迫害された」っていう感じを持ってらっしゃるのですか。（ひばり）（子どもが大人の歌を巧みに歌うと）「ゲテモノだ。ゲテモノは消さなければいけない」と新聞に書かれたのですね。
うちのお母さんは、泣くほど悔しがりましたね。・・（筑紫）バネみたいな役割は果たしたわけですね。（ひばり）そういうことでは、割とすんなり来なかったことがよかったと思います・・・

■「下町の天才少女といわれた想い出」・・・（ひばり）近所では、「あそこの魚政さんとこの和枝（本名 加藤和枝）ちゃんは歌がうまいよ」ってことになって、近所の人を呼んではね、障子をうまく幕替わりにしてね、「バーンバーンバーン」って自分の声でね、こうやってちゃんと音出して、お辞儀して歌い出すわけですね・・

■「ひばりという名前」・・「ひばり」は天高く舞い、人の知らない場所に降りていく鳥‥
自分もいつかは歌えなくなるときがあると思いますから・・みんながどこへ降りたのかなって思うようにしたいなっていうのが望みなのです

■「モノマネから美空ひばりの真の声へ」少しずつ「モノマネ」から「美空ひばり」の声ができました

■「笠置シヅ子からの〈歌唱禁止事件〉(1949)」の真相・・とても悲しかったですね。自分に負けない

■出刃包丁を投げる父、それをよける母・・・お母さんはよけるのがうまくなった・・

■美空ひばり、「酒」を語る　（筑紫）お酒の中で、自分が解放されるっていう部分が？（ひばり）はい、なにか、そういう「美空ひばり」というものに、何か縛り付けられちゃっている自分が、とってもこの頃うっとうしくなってきたのですね。ですからもう最近ではね、何か言ったって開き直っています

■母の死、弟の死。ひとりになった美空ひばり
本当に一人になってしまったということで、もう私の気持ちの中には少し開き直っているような。こんなに次から次と（運命が）美空ひばりをいじめるのだったら、美空ひばりだってこれに反抗していこうじゃないか。好きな歌を自分で選んだのだから、死に物狂いになったってやっていかなきゃいけないのだって

■「ひばり御殿」を建てた意味
（筑紫）「自分の再スタート」みたいな？（ひばり）はい、そうです。自分にちょっと勝負を仕掛けたのですね。だから簡単には死ねないのですよ。それを今、（借金を）返しながら働いているわけですからね。家というのはこれだけ表で働いてきた自分の体がゆったり休めるものが欲しかったのですね。

■新築の家での交友　・・・浅丘ルリ子（1940－、女優）さんとあおい輝彦(1948－、歌手)さんとか、この部屋で飲みまして、で、ギターを弾いてくれたりして、みんなでメドレーを歌いましたね。

■「歌唱論」　（筑紫）フリオ・イグレシアスにインタビューしたときに「自分が何歳まで声が出るのだろう」と恐れを感じるっていっていました（ひばり）その通りですね、やっぱり心配じゃないですか。私も喉を痛めたときに先生に、真剣に伺いました。私は何歳まで歌える声帯なのでしょうって？

■なぜ家族をかばってきたのか
（筑紫）（「暴力団問題」での)家族のかばい方は異常？
（ひばり）異常ですね。なんでそういうふうになったかっていうと自分としてはものすごいハンデを持っていたっていうのですかね。お母さんを自分が独り占めしてしまって他のあとの 3 人の兄弟に不自由をさせてしまった。お母さんの愛を与えてあげなかった。あんたたちのさみしさは今、私が少しずつお返ししてあげるわねっていうことでした

■母の失敗

美空ひばりのプロデューサーとしては素晴らしい母であったけれども、長女美空ひばりだけを完成させた母であって、あとの 3 人の子供たちにはやっぱり愛を伝えなかった。お袋が聞いたら泣くでしょうけど、私がお袋に対してただ一つそれだけは、お袋の「失敗」だったのじゃないかなとは思いますね。

■ひばりが泣く時。涙の意味

・・・歌の歌詞の内容的に溺れて泣いているのでなくて、そのときに何かがあったり、お母さんに何かがあったり、兄弟に何かがあったりですね、自分自身に何かがあったりするときの涙なのですね。

■美空ひばりが、歌でこだわっていること

（原曲を）「崩す」ということはとっても、いいけないことだと思うのです。だからそれだけは気をつけようと思っているのですね。どんなに昔の歌を歌い込んで慣れてきたって言っても、やっぱりテンポをずらして歌ったり、歌い方を変えてみたり、とかっていうのは、あまり賛成できないですね。

■自己分析、美空ひばりはなぜ人気があるのか

「嘘つきじゃないから」、かな。だと思うのですね。「自分にものすごく正直だ」と自分で思っています

■生き甲斐

（劇場で）昨年の美空ひばりの記録を今年の美空ひばりが破りましたよって最後に千秋楽に聞かされますと、それが大変に私としては嬉しいですね。それは生き甲斐ですね、その言葉が。

■誰も言わない「こわい興行の世界」

（筑紫）興行の世界っていうのは、かなりいろんな怖いことがある・・（ひばり）そうですね。昔はほとんど皆さん味わっていたことだと思いますけれども、皆さん黙りこくっておっしゃらないですけどね、私は素直にお話しちゃうのですけれどもね。・・・母に聞いたのは、匕首で、畳にぶすっと突き刺されられたのですね。・・仕返しに来られると嫌だと思ったので「ある方」の助けで、お話をつけてもらいました。（「ある方」について筑紫哲也は著書「旅の途中」でこのインタビューの後、聞いた話を明かしている）

■「人生美空ひばり」はとても寂しい

最近またそういう感じ（「真っ赤な太陽」）の歌もそろそろ歌いたいなとは思っているのですねなかなか美空ひばりの歌は寂しい歌が多いですね。「人生美空ひばり」は、とても寂しいのですから歌ぐらいは楽しい歌を欲しいと思っているのです。

■美空ひばり、「男」と「恋」を語る

私の方から積極的に相当迫ってアタックしていかないと男性がその気になってくれないのじゃあないかっていう不安はありますね。ただし私って割とそんなにはアタックうまくないので。

■私の心境・・今、私の心境は「秋が来るのが早すぎる」のです。何か望みを持っているのですけども。

■息子、和也のこと

背中だけは流してくれます。背中を流してもらったときにふっと、お母さんの気分になったりしてそのうちに「そこへ座ってしばらく喋っていて、ママ寂しいから」って言うと「ふん」とか言って、私が湯船に浸かっている側で話し相手になってくれて、そのうちにね、ふっと私の方が恥ずかしくなるのです。

■美空ひばりが「死にたい」と思ったとき

時々は「死にたい」なんておふくろが亡くなったときとか、そういうお袋が病気のときとかっていうのは、「死にたい」なんて馬鹿なことを考えたこともありましたけどね。

■歌こそ、わが命

私の中に、「これからも頑張って羽ばたいて歌ってくわ」っていうふうにマイクに向かって叫んでいる美空ひばりがいる。「私はこれしかないのだから頑張るのですよ」っていう意味なのですね。　　以上